

労組運動千葉

労組組合運動に対する不当な介入・弾圧を絶対に許さない！

3月27日早朝、千葉県警は、大量の枕動隊を導入し、「3・13ゲリラ事件」を口実として、ゆが勤労千葉本部事務所・津田沼支部事務所・及び中野書記長をはじめ組合役員の家宅六箇所、計八箇所への、全く不当極まりない家宅捜索を強行した。

ゆが勤労千葉は、満腔の怒りをこめて、この労組組合に対する前代未聞の不当弾圧を弾劾すると共に、ただちに、全面的な反撃に立ち上っている。

前代未聞のデタラメ・反動攻撃

周知の通り、ゆが勤労千葉は、三〇〇組合員の主体的な活動として、三里塚労働連帯の旗をかかげ、三里塚軍事空港粉砕・労働連帯・ジェット燃料貨車輸送阻止の闘いを一貫して闘いぬいてきている。

勤労千葉が、労組組合の原点に照して、社会正義の立場に立ち、国家権力の農民圧殺攻撃を許さぬ闘いを、組織的に展開してきたこと、現にしている事は、百パーセントの正義の行動であり、日本労組運動の誇るべき良心そのものである。

勤労千葉が労組組合運動として、ジェット闘争を不屈に闘いぬいているが故に、また全ゆる反動の憎みの的であることも事実である。

今回強行された捜索の「3・13ゲリラ」容疑なるものが、このような勤労千葉・組合員が関係するものでありえない事は、明白である。にもかかわらず、千葉県警は、この事を充分承知の上で、フレームアップを行い、仰々しい「捜索」なるものをえがき上げて、あたかも勤労千葉及びその組合員が関係しているかのような印象をまきちらすことを目的に、強行してきたのである。

今回の強行捜索は文字通り不当かつデタラメな、極めて政治的な弾圧そのものである。

その事は、例えば、あの反動新聞「サンケイ」に至っては、権力の思惑をストレートにさらけ出して、当日の紙面に「家宅捜索」がなされたこと、勤労千葉が「ゲリラ事件」に関与していた事が明らかになった……などと、断じて許すことの出発点ないデタラメな報道を行い、極めて政治的な断定をもて反動宣伝の先棒をかっついていっているのである。

そして、又なによりも、権力の意図が、何か何でも、勤労千葉の組織破壊を狙ったものである事は、当日の「押収品」の中に、およそ「3・13ゲリラ」容疑とは無関係な「日刊勤労千葉」や「定期委

員会資料」は、はては「組合金銭出納簿」などの組合文書を集団的に強奪していくというデタラメなやり方をしているのである。

ゆが勤労千葉は、断じて許さない！

ただちに反撃を開始

今回の千葉県警の不法・不当な弾圧を許すならば、極めて恐ろしい暗黒の時代に道を開くことになることは確実である。

労組組合をはじめ、闘う組織・団体に対し、およそ無関係の「容疑」をデッチ上げて、権力の一方的断定とマスコミを使う反動的宣伝で次々と不当弾圧・介入・デタラメ上げ、組織破壊を許すことになるからである。

ゆが勤労千葉は、直ちに抗議行動・反撃に立ち上った。

3月30日——社会党県議団・勤労千葉弁護団による千葉県警への抗議行動。

3月31日——千葉地裁に対し、違法・不当な家宅捜索取消しを求める準抗告の申し立て。

4月2日——権力のお先棒をかっついて意図的な反動的なデマを報道した「サンケイ新聞」に対する、徹重な抗議行動。

以上の抗議行動を展開しつつ、多くの集会にじつて訴え、広範な社会的抗議の署名をくり続け、また、国家賠償請求訴訟を起こす準備を進めている。

不当弾圧をうち破り、前進しよう

勤労千葉に対する今回の不当弾圧・介入は、明白に今日の支配階級の体制的危機乗り切りのための反動攻撃の激化を象徴する弾圧である。

労組運動総体が右傾化・産報化する中で、「三里塚を闘う労働運動」を選択するゆが勤労千葉への弾圧は、より激しくなることも又、必然である。

しかし、ゆが勤労千葉は、こうした反動攻撃を打ち破り、一層労働連帯を強化し、三里塚二期決戦勝利、ジェット闘争貫徹、国鉄35万人体制粉砕、へより力強く前進していくべきではないか。